

資料第1179号

平成21年度
学校保健統計調査結果報告

平成22年5月

広島県

目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	3
I 発育状態	3
1 平均体格	3
(1) 身長	3
(2) 体重	4
(3) 座高	5
2 親世代の体格との比較	6
3 肥満傾向児の出現率	7
4 痩身傾向児の出現率	8
II 健康状態	9
1 主な疾病・異常の被患率	9
2 主な疾病・異常の状況	9
3 主な疾病・異常の推移	11
III 全国値との比較	12
1 発育状態	12
(1) 全国平均体格との差	12
(2) 総発育量の全国平均値との比較	13
(3) 17歳男女平均値の推移	14
(4) 肥満傾向児・痩身傾向児の全国出現率との比較	15
2 健康状態	17
統計表	19

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、文部科学省が昭和23年度から実施しており、学校における児童、生徒及び幼児の発育状態及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とする。（基幹統計）

2 調査の時期

平成21年4月1日から平成21年6月30日までの間に、学校保健安全法に基づき実施した健康診断結果により調査したものである。

3 調査の範囲・対象

県内の国立・公立・私立の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、満5歳から満17歳までの幼児、児童及び生徒の一部を、文部科学省が定める方式により各学校区分毎に無作為抽出している。対象学校数及び対象者数は次のとおりである。

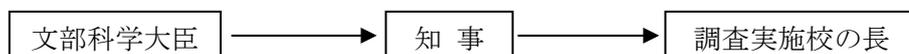
総数・対象学校（者）数	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	計
学校総数	324園	577校	282校	135校	1,318校
うち対象学校数	36園	61校	41校	32校	170校
児童・生徒・幼児総数	12,754人	161,719人	82,711人	75,600人	332,784人
うち発育状態調査 実施校1校当りの 対象者数	男女別5歳児 各22人 合計44人	男女別年齢別 各8人 合計96人	男女別年齢別 各20人 合計120人	男女別年齢別 各15人 合計90人	—
うち発育状態調査 対象者数 (県内総児童・生徒・ 幼児・に対する割合)	1,315人 (10.3%)	5,499人 (3.4%)	4,343人 (5.3%)	2,702人 (3.6%)	13,859人 (4.2%)
うち健康状態調査 実施校1校当りの 対象者数	5歳児の 全園児数	当該年齢の 全児童数	当該年齢の 全生徒数	当該年齢の 全生徒数	—
うち健康状態調査 対象者数 (県内総児童・生徒・ 幼児・に対する割合)	2,117人 (16.6%)	31,244人 (19.3%)	18,296人 (22.1%)	22,287人 (29.5%)	73,944人 (22.2%)

(注) 1 調査実施校及び調査対象者数は、幼児・児童・生徒数及び学校数に応じ、層化抽出法により抽出した。

2 学校総数、幼児（5歳在園児のみ）・児童・生徒数は、平成21年度学校基本調査結果報告による。また、高等学校の18歳以上の生徒及び通信制の在生徒は調査対象から除いている。（年齢は平成21年4月1日現在の満年齢）

4 調査の方法

調査の調査系統は、次のとおりである。なお、平成16年度から従来の調査票に加え電子調査票システムにより、インターネット上からも調査票を収集している。



5 調査事項

学校保健安全法に基づき各学校で実施された健康診断結果により、次の発育状態及び健康状態について調査する。

- (1) 児童、生徒及び幼児の発育状態（身長、体重及び座高）
- (2) 児童、生徒及び幼児の健康状態（栄養状態、むし歯〔う歯〕、視力、聴力、眼の疾病・異常、耳鼻咽喉頭疾患、皮膚疾患、心臓の疾病・異常など検診の結果）

なお、聴力検査（難聴）、結核検査、結核に関する検診、心電図検査、尿糖検査、寄生虫卵検査、永久歯のむし歯（う歯）等数については、調査対象年齢は次表のとおりである。

検査項目	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
聴力検査(難聴)	—	○	○	○	—	○	—	○	—	○	○	—	○
結核検査	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
結核に関する検診	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—
心電図検査	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—
尿糖検査	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
寄生虫卵検査	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
永久歯のむし歯(う歯)等数	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
上記以外の検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(注) ○印は調査対象年齢を表す。

6 利用上の注意

統計表の符号の用法は、該当者がいない場合「—」、調査対象外「…」、計数が単位未満「0.0」「0.00」、減少「△」、標本サイズが小さいことや標準誤差が5%以上等のため統計数値を公表しない場合「X」とした。

7 留意事項

- (1) この報告書は、平成21年度学校保健統計調査（文部科学省所管）について、文部科学省の速報集計結果等を基に、広島県分について、発育状態及び健康状態に関して取りまとめたものである。
- (2) この数値は速報値であり、平成22年3月に公表予定である文部科学省「学校保健統計調査報告書」の数値と異なることがある。

調査結果の概要

I 発育状態

1 平均体格

平成21年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重、座高の平均を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

(1) 身長 (表1, 図1, 図2)

男子の身長(平均値。以下同じ)は、5歳、8歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の身長差が最も大きいのは、12歳～13歳の7.7 cmとなっている。

女子の身長は、5歳、8歳～12歳、14歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。調査開始した昭和24年以降でみると、9歳で過去最高値となっている。各年齢間の身長差が最も大きいのは10歳～11歳の6.8cmとなっている。

表1 男女別年齢別 身長(平均値)

(単位: cm)

男女・年度		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	21年度	110.2	116.4	121.6	127.8	132.8	138.2	144.2	151.5	159.2	164.4	167.8	168.6	169.8
	20年度	110.1	116.4	122.2	127.5	133.4	138.6	144.9	151.8	159.3	164.7	167.8	169.0	169.8
	差	0.1	0.0	△0.6	0.3	△0.6	△0.4	△0.7	△0.3	△0.1	△0.3	0.0	△0.4	0.0
女子	21年度	109.6	115.3	120.7	127.1	<u>133.4</u>	139.6	146.4	151.3	154.2	156.1	156.5	156.5	157.0
	20年度	109.5	115.5	121.1	127.0	133.0	139.1	146.2	151.2	154.6	155.6	156.8	157.3	157.8
	差	0.1	△0.2	△0.4	0.1	0.4	0.5	0.2	0.1	△0.4	0.5	△0.3	△0.8	△0.8

(注) 下線部は、調査実施以来の最高値を示す。

図1 年齢別身長(平均値)の推移 男子

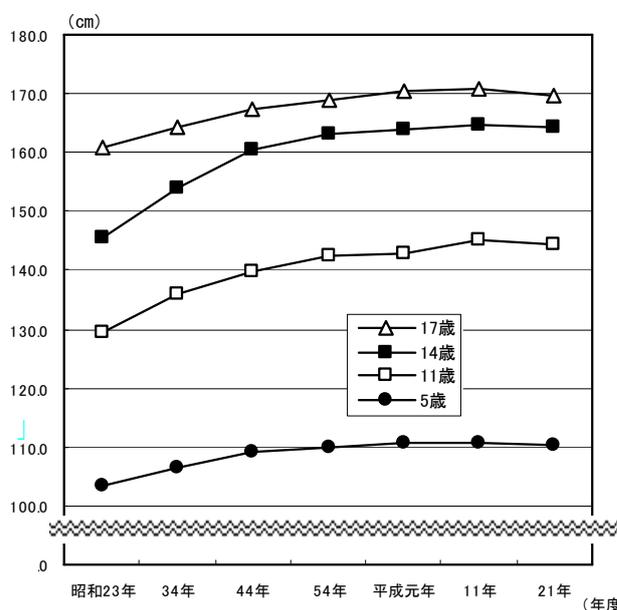
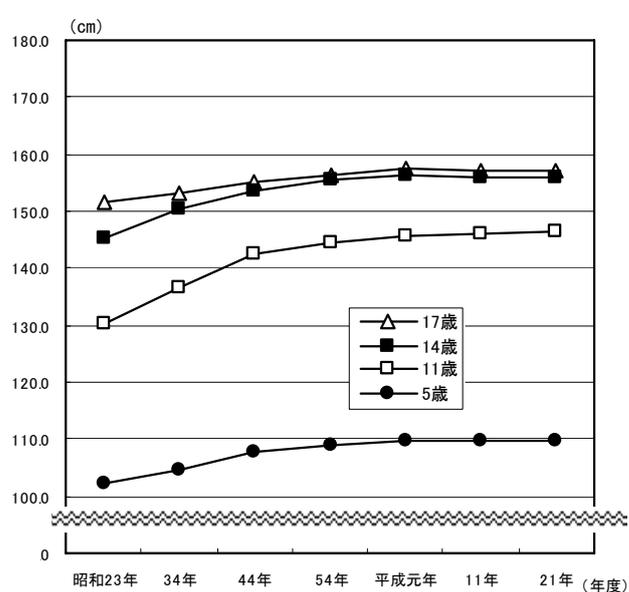


図2 年齢別身長(平均値)の推移 女子



(2) 体 重 (表 2 , 図 3 , 図 4)

男子の体重(平均値。以下同じ)は、5歳、6歳、8歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。各年齢間の体重差が最も大きいのは、11歳～12歳、12歳～13歳の5.5kgとなっている。

女子の体重は、9歳、10歳、14歳、15歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の体重差が最も大きいのは、11歳～12歳の4.7kgとなっている。

表 2 男女別年齢別 体重(平均値)

(単位: kg)

男女・年度		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	21年度	18.9	21.5	23.5	27.2	30.1	33.5	37.6	43.1	48.6	53.5	58.6	60.5	62.7
	20年度	18.7	21.4	23.9	26.9	30.5	33.7	38.4	44.4	49.4	54.8	58.9	60.9	62.8
	差	0.2	0.1	△0.4	0.3	△0.4	△0.2	△0.8	△1.3	△0.8	△1.3	△0.3	△0.4	△0.1
女子	21年度	18.5	20.9	23.2	26.2	29.9	34.4	38.9	43.6	46.8	50.3	51.7	52.4	52.8
	20年度	18.5	<u>21.2</u>	23.3	26.3	29.6	33.7	39.1	44.2	47.5	50.2	50.8	52.7	53
	差	0.0	△0.3	△0.1	△0.1	0.3	0.7	△0.2	△0.6	△0.7	0.1	0.9	△0.3	△0.2

(注) 下線部は、調査実施以来の最高値を示す。

図 3 年齢別体重(平均値)の推移 男子

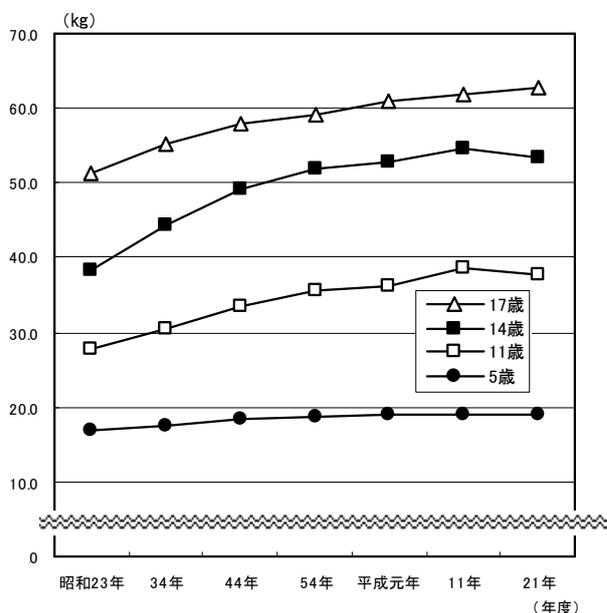
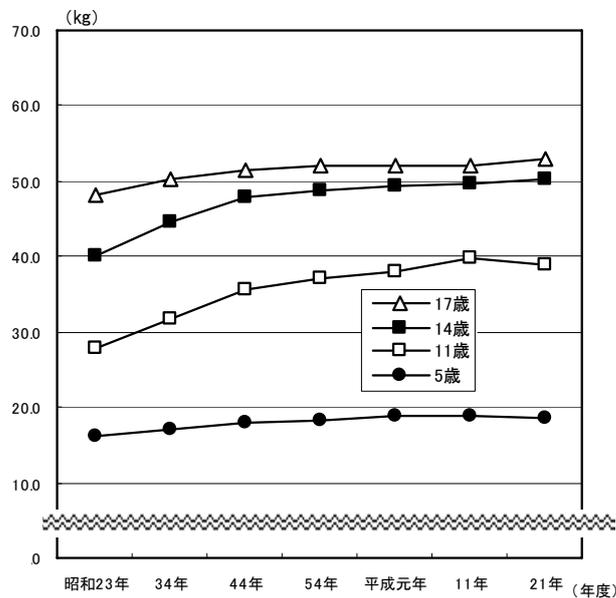


図 4 年齢別体重(平均値)の推移 女子



(3) 座高 (表3, 図5, 図6)

男子の座高(平均値。以下同じ)は、8歳、15歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。各年齢間の座高差が最も大きいのは、12歳～13歳の3.8cmとなっている。調査開始した昭和24年以降でみると、15歳で過去最高値となっている。

女子の座高は、9歳～12歳、14歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の座高差が最も大きいのは、10歳～11歳の3.3cmとなっている。

表3 男女別年齢別 座高(平均値)

(単位: cm)

男女・年度		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	21年度	61.5	64.8	67.4	70.2	72.6	74.8	77.4	80.9	84.7	87.7	<u>90.1</u>	90.8	91.4
	20年度	61.7	64.8	67.7	70.1	72.7	74.9	77.6	81.2	85.0	<u>88.0</u>	90.0	<u>91.1</u>	91.5
	差	△0.2	0.0	△0.3	0.1	△0.1	△0.1	△0.2	△0.3	△0.3	△0.3	0.1	△0.3	△0.1
女子	21年度	61.3	64.4	67	69.8	72.7	75.9	79.2	82.1	83.5	84.6	85.2	85.2	85.4
	20年度	61.3	64.6	67.1	70.1	72.5	75.6	79.1	82	83.8	84.5	85.4	85.5	<u>85.7</u>
	差	0.0	△0.2	△0.1	△0.3	0.2	0.3	0.1	0.1	△0.3	0.1	△0.2	△0.3	△0.3

(注) 下線部は、調査実施以来の最高値を示す。

図5 年齢別座高(平均値)の推移 男子

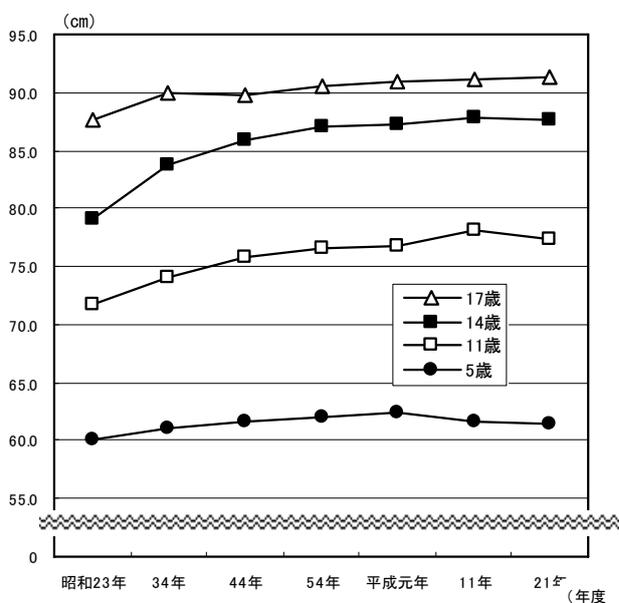
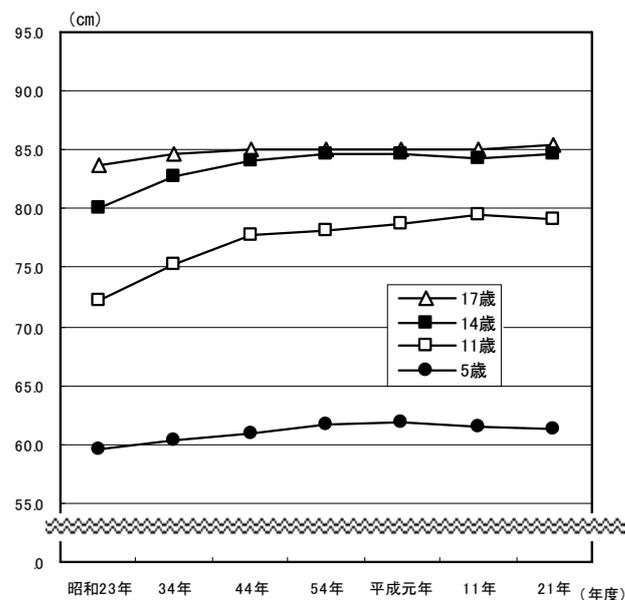


図6 年齢別座高(平均値)の推移 女子



2 親世代の体格との比較 (表4)

平成21年度と親の世代である30年前の昭和54年度の体格を比較してみると、男子女子5歳及び女子16歳の座高を除き、身長、体重、座高、すべてにおいて平成21年度で向上している。

男子の身長をみると、最も差があるのは、12歳で、親の世代より2.9cm高くなっている。体重は、17歳で3.5kg重くなっている。座高は、12歳で1.4cm高くなっている。

女子の身長をみると、最も差があるのは、9歳で、親の世代より2.2cm高くなっている。体重は、10歳で2.1kg重くなっている。座高は、10歳で1.2cm高くなっている。

表4 親世代の体格との比較

男女・校種・年齢			身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
			平成 21年度	昭和 54年度	差	平成 21年度	昭和 54年度	差	平成 21年度	昭和 54年度	差
男子	幼稚園	5歳	110.2	109.8	0.4	18.9	18.7	0.2	61.5	62.1	△0.6
		6歳	116.4	115.2	1.2	21.5	20.4	1.1	64.8	64.7	0.1
	小学校	7歳	121.6	120.7	0.9	23.5	22.7	0.8	67.4	67.3	0.1
		8歳	127.8	126.2	1.6	27.2	25.5	1.7	70.2	69.7	0.5
		9歳	132.8	131.2	1.6	30.1	28.3	1.8	72.6	71.6	1.0
		10歳	138.2	136.2	2.0	33.5	31.5	2.0	74.8	73.8	1.0
		11歳	144.2	142.5	1.7	37.6	35.7	1.9	77.4	76.5	0.9
		12歳	151.5	148.6	2.9	43.1	40.0	3.1	80.9	79.5	1.4
	中学校	13歳	159.2	157.1	2.1	48.6	46.5	2.1	84.7	83.7	1.0
		14歳	164.4	163.1	1.3	53.5	51.9	1.6	87.7	87.0	0.7
		15歳	167.8	166.1	1.7	58.6	55.6	3.0	90.1	88.9	1.2
	高等学校	16歳	168.6	168.3	0.3	60.5	58.2	2.3	90.8	90.2	0.6
		17歳	169.8	168.9	0.9	62.7	59.2	3.5	91.4	90.6	0.8
		16歳	168.6	168.3	0.3	60.5	58.2	2.3	90.8	90.2	0.6
女子	幼稚園	5歳	109.6	109.0	0.6	18.5	18.3	0.2	61.3	61.6	△0.3
		6歳	115.3	114.6	0.7	20.9	20.1	0.8	64.4	64.2	0.2
	小学校	7歳	120.7	119.9	0.8	23.2	22.4	0.8	67.0	66.7	0.3
		8歳	127.1	126.1	1.0	26.2	25.4	0.8	69.8	69.6	0.2
		9歳	133.4	131.2	2.2	29.9	28.2	1.7	72.7	71.6	1.1
		10歳	139.6	137.6	2.0	34.4	32.3	2.1	75.9	74.7	1.2
		11歳	146.4	144.6	1.8	38.9	37.0	1.9	79.2	78.2	1.0
		12歳	151.3	149.9	1.4	43.6	42.0	1.6	82.1	81.3	0.8
	中学校	13歳	154.2	153.9	0.3	46.8	46.6	0.2	83.5	83.5	0.0
		14歳	156.1	155.4	0.7	50.3	48.7	1.6	84.6	84.6	0.0
		15歳	156.5	155.8	0.7	51.7	50.8	0.9	85.2	85.1	0.1
	高等学校	16歳	156.5	156.4	0.1	52.4	51.8	0.6	85.2	85.3	△0.1
		17歳	157.0	156.4	0.6	52.8	52.2	0.6	85.4	85.7	0.3
		16歳	156.5	156.4	0.1	52.4	51.8	0.6	85.2	85.3	△0.1

3 肥満傾向児の出現率 (表5)

平成21年度の肥満傾向児の出現率は、男子では16歳が最も高く、5歳で最も低い。女子は、10歳が最も高く、5歳で最も低い。

表5 年齢別 肥満傾向児の出現率 (単位：%)

校種・年齢		肥満傾向児の出現率(男子)		肥満傾向児の出現率(女子)	
		21年度	20年度	21年度	20年度
幼稚園	5歳	1.54	1.41	2.43	4.07
	6歳	6.07	3.65	4.98	4.64
小学校	7歳	4.71	5.79	6.00	6.02
	8歳	7.66	7.34	5.12	4.96
	9歳	8.84	8.72	8.04	7.31
	10歳	9.06	9.45	11.10	8.13
	11歳	9.22	10.69	10.60	9.60
中学校	12歳	10.88	12.98	8.84	11.98
	13歳	8.22	10.73	8.14	9.26
	14歳	10.30	10.78	10.07	10.81
高等学校	15歳	11.93	10.78	8.86	5.45
	16歳	13.47	10.72	8.11	6.10
	17歳	11.89	14.88	9.59	5.69

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。以下の各表において同じ。

算式は、次のとおりである。以下の各表において同じ。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

身長別標準体重は、次表の身長別標準体重を求める係数表のa, bと実測身長により求める。
 身長別標準体重(キログラム) = a × 実測身長(センチメートル) - b

身長別標準体重を求める係数表

年齢・係数	男子		女子	
	a	b	a	b
5歳	0.386	23.699	0.377	22.750
6歳	0.461	32.382	0.458	32.079
7歳	0.513	38.878	0.508	38.367
8歳	0.592	48.804	0.561	45.006
9歳	0.687	61.390	0.652	56.992
10歳	0.752	70.461	0.730	68.091
11歳	0.782	75.106	0.803	78.846
12歳	0.783	75.642	0.796	76.934
13歳	0.815	81.348	0.655	54.234
14歳	0.832	83.695	0.594	43.264
15歳	0.766	70.989	0.560	37.002
16歳	0.656	51.822	0.578	39.057
17歳	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：財団法人日本学校保健会『児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)』平成18年

4 痩身傾向児の出現率 (表6)

平成21年度の痩身傾向児の出現率は、男子では15歳が最も高く、5歳で最も低く、女子は、12歳が最も高く、6歳で最も低い。

表6 年齢別痩身傾向児の出現率

(単位:%)

校種・年齢		痩身傾向児の出現率(男子)		痩身傾向児の出現率(女子)	
		21年度	20年度	21年度	20年度
幼稚園	5歳	0.00	0.16	0.56	0.24
小学校	6歳	0.61	0.41	0.25	0.00
	7歳	0.95	0.40	0.91	0.70
	8歳	1.74	0.42	0.44	0.79
	9歳	1.36	1.49	1.93	1.34
	10歳	1.90	2.59	1.53	1.44
	11歳	1.65	2.10	2.03	2.12
中学校	12歳	2.94	1.72	3.62	1.42
	13歳	0.93	2.27	2.36	2.71
	14歳	1.95	1.93	3.47	2.21
高等学校	15歳	3.88	1.99	1.74	1.29
	16歳	1.59	1.95	0.89	1.07
	17歳	1.74	1.93	1.46	1.27

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。以下の各表において同じ。

II 健康状態

1 主な疾病・異常の被患率 (表7)

平成21年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても「むし歯(う歯)」の者(処置歯完了者を含む。以下同じ)が1位となり、次いで「裸眼視力1.0未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」となっている。

表7 主な疾病・異常の被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯(う歯)	43.2	むし歯(う歯)	58.8	むし歯(う歯)	45.2	むし歯(う歯)	55.2
2	鼻・副鼻腔疾患	8.8	裸眼視力1.0未満の者	28.7	鼻・副鼻腔疾患	8.6	鼻・副鼻腔疾患	10.0
3	耳疾患	5.0	鼻・副鼻腔疾患	12.1	眼の疾病・異常	5.4	眼の疾病・異常	5.0
4	眼の疾病・異常	3.4	眼の疾病・異常	6.4	歯列・咬合	5.0	歯肉の状態	4.1
5	アトピー性皮膚炎	3.3	耳疾患	4.1	歯肉の状態	4.9	歯垢の状態	4.1
6	歯列・咬合	2.1	ぜん息	4.1	歯垢の状態	4.5	歯列・咬合	3.5
7	ぜん息	2.0	アトピー性皮膚炎	3.4	心電図異常	3.9	心電図異常	2.9
8	言語障害	1.4	歯垢の状態	2.9	アトピー性皮膚炎	3.3	蛋白検出の者	2.8
9	その他の疾病・異常(歯・口腔)	1.1	歯肉の状態	2.7	耳疾患	2.7	耳疾患	2.7
10	その他の皮膚疾患	1.0	その他の疾病・異常(歯・口腔)	2.6	ぜん息	2.7	アトピー性皮膚炎	2.2

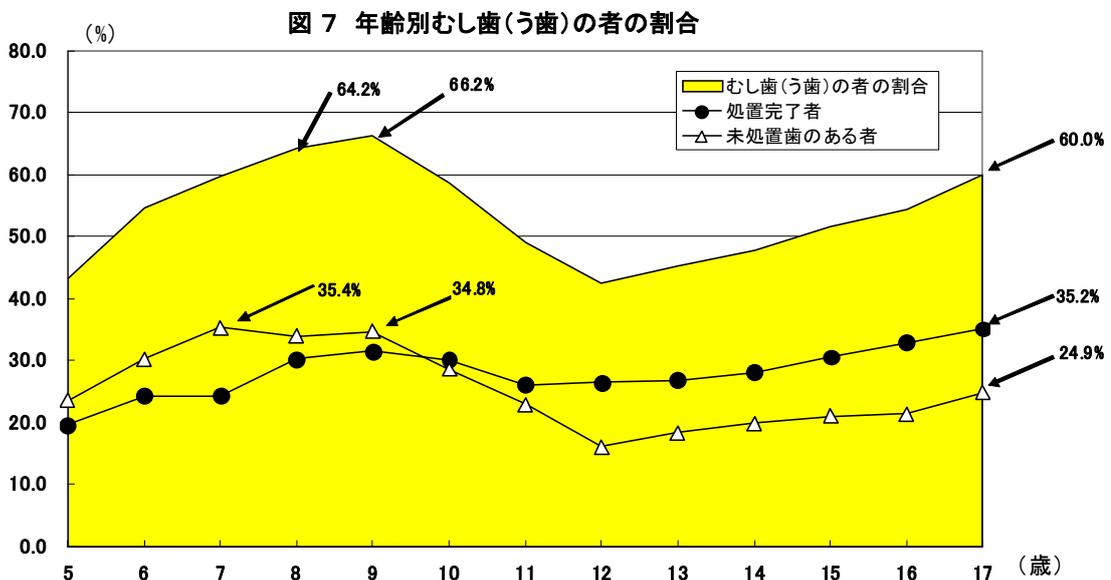
(注) 幼稚園、中学校、高等学校の「裸眼視力1.0未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため、公表されていない。

2 主な疾病・異常の状況

(1) むし歯(う歯) (図7, 統計表第2表)

平成21年度の「むし歯(う歯)」の者の割合は、幼稚園が43.2%、小学校58.8%、中学校45.2%、高等学校55.2%となっている。

「むし歯(う歯)」の者の割合を年齢別にみると9歳が66.2%と最も高く、次いで8歳が64.2%となっている。また、処置完了者の割合は、10歳以降未処置歯のある者の割合を上回っている。



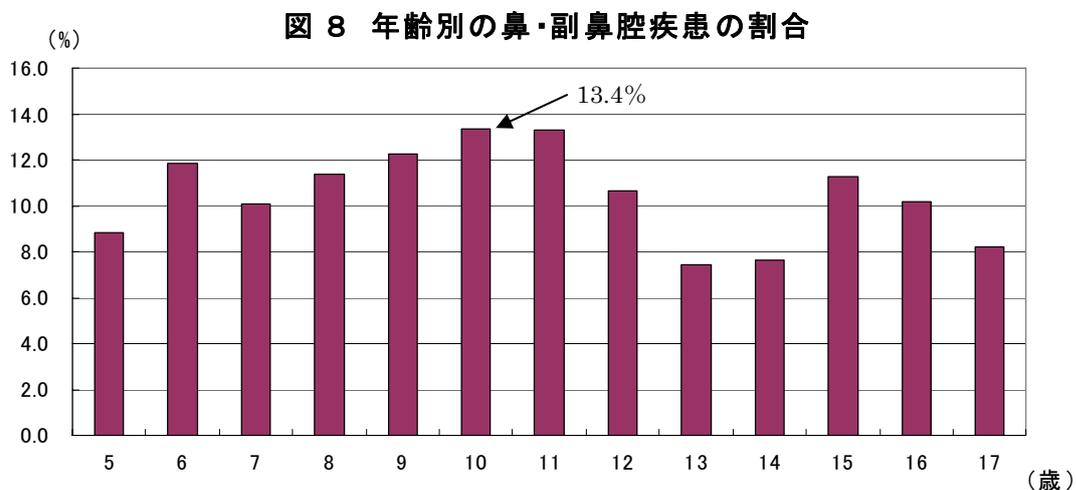
(2) 裸眼視力 1.0 未満の者 (統計表 第 2 表)

平成 21 年度の「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、小学校 28.7%となっている。

(3) 鼻・副鼻腔疾患 (図 8, 統計表 第 2 表)

平成 21 年度の慢性副鼻腔炎 (蓄のう症), 慢性的症状の鼻炎及び花粉症等の鼻・副鼻腔疾患は、幼稚園では 8.8%, 小学校 12.1%, 中学校 8.6%, 高等学校で 10.0%となっている。

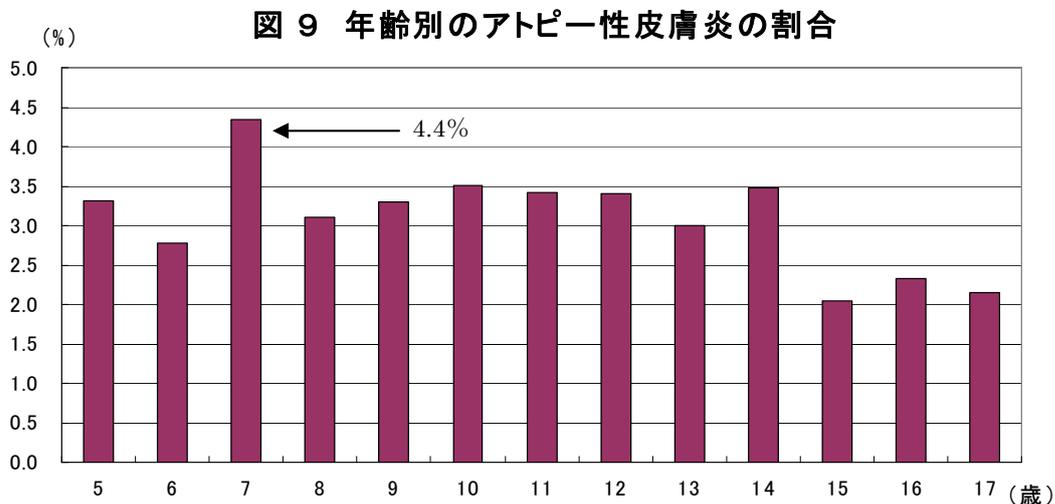
「鼻・副鼻腔疾患」の割合を年齢別で見ると、10 歳が 13.4%と最も高くなっており、低年齢層で高い傾向があります。



(4) アトピー性皮膚炎 (図 9, 統計表 第 2 表)

平成 21 年度の「アトピー性皮膚炎」の割合は、幼稚園では 3.3%, 小学校 3.4%, 中学校 3.3%, 高等学校で 2.2%となっている。

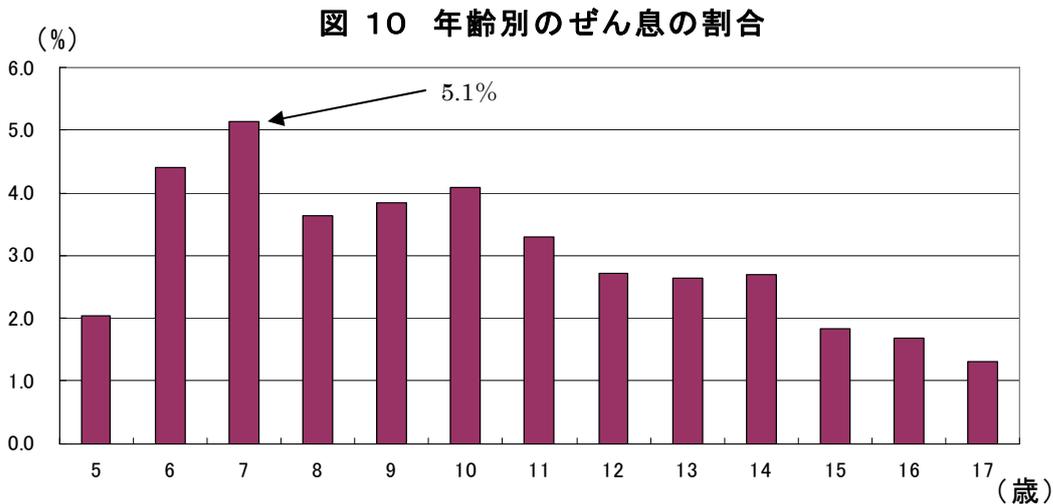
「アトピー性皮膚炎」の割合を年齢別にみると、7 歳が 4.4%と最も高く、年齢が進むにつれて低くなる傾向となっている。



(5) ぜん息 (図10, 統計表第2表)

平成21年度の「ぜん息」の割合は、幼稚園では2.0%, 小学校4.1%, 中学校2.7%, 高等学校で1.6%となっている。

「ぜん息」の割合を年齢別にみると、7歳が5.1%と最も高く、年齢が進むにつれて、低くなる傾向となっており、高等学校では1.0%台まで低下している。



3 主な疾病・異常の推移 (表8)

疾病・異常等の主なものについて、平成18年度から21年度までの推移をみると次のとおりである。むし歯(う歯)については、小学校及び中学校で低下しており、鼻・副鼻腔疾患については、いずれの学校段階においても横ばい傾向にある。

表8 主な疾病・異常等の推移 (単位: %)

検査項目	幼稚園				小学校				中学校				高等学校			
	21年度	20年度	19年度	18年度												
むし歯(う歯)	43.2	47.1	45.4	39.1	58.8	60.3	61.9	63.7	45.2	46.3	47.6	52.8	55.2	61.1	57.2	65.2
裸眼視力1.0未満の者	X	16.4	X	X	28.7	28.4	25.9	27.2	X	X	36.9	X	X	X	X	X
鼻・副鼻腔疾患	8.8	5.0	5.8	8.2	12.1	9.8	11.4	12.3	8.6	7.9	9.8	9.7	10.0	7.9	8.5	8.3
眼の疾病・異常	3.4	3.3	3.2	4.1	6.4	5.6	6.6	6.6	5.4	4.4	5.3	5.3	5.0	5.3	3.5	4.5
耳疾患	5.0	2.3	1.3	3.0	4.1	3.0	3.5	3.7	2.7	2.3	3.7	2.8	2.7	1.8	1.6	2.0
ぜん息	2.0	1.5	2.3	1.9	4.1	3.3	4.3	3.2	2.7	2.9	3.2	2.3	1.6	1.1	1.4	1.2
歯列・咬合	2.1	0.9	2.7	0.5	2.6	3.8	4.1	4.3	5.0	5.4	5.1	4.6	3.5	5.6	3.7	4.2
心電図異常	2.4	2.1	2.1	2.3	3.9	3.3	3.1	3.4	2.9	2.6	2.2	4.8
アトピー性皮膚炎	3.3	3.6	2.6	4.0	3.4	3.2	3.9	4.6	3.3	3.2	4.0	3.1	2.2	2.8	2.5	2.4
蛋白検出の者	0.6	0.7	0.4	0.9	0.6	0.6	0.7	1.0	2.3	2.7	2.9	3.4	2.8	4.1	2.9	3.5
歯肉の状態	0.5	...	0.1	0.2	2.7	2.9	2.1	3.5	4.9	5.1	5.8	6.6	4.1	6.5	6.5	5.6
歯垢の状態	0.5	0.1	0.2	0.1	2.9	2.7	3.4	3.8	4.5	6.0	4.5	5.7	4.1	6.9	5.6	6.6
その他の皮膚疾患	1.0	1.4	0.4	1.6	0.4	0.7	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.3
口腔咽喉頭疾患・異常	0.3	0.5	1.9	0.8	1.6	1.7	1.7	1.3	0.4	0.4	0.3	0.6	1.4	0.2	0.2	0.4

Ⅲ 全国値との比較

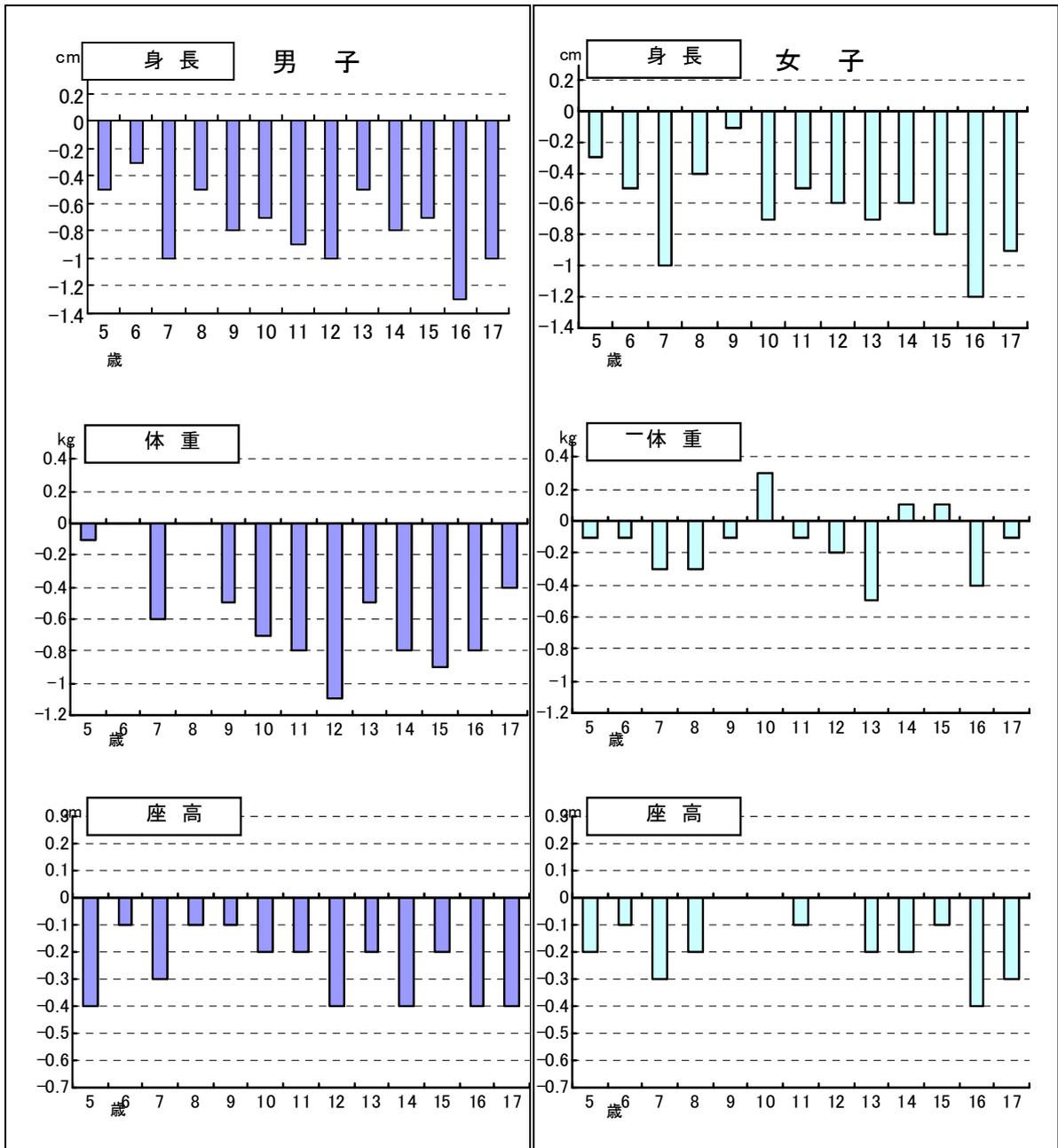
1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (図11)

平成21年度の広島県平均値と全国平均値を比較してみると、次のとおりである。
特に身長は、男子、女子ともに各年齢において全国平均値を下回っている。

図11 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値=0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表9)

17歳時(調査対象の最高年齢)の体格から、5歳時(調査対象の最小年齢)の体格を差し引いた総発育量をみると、男子では身長59.6cm、体重43.8kg、座高29.1cmであり、全国平均値より身長は0.4cm下回り、体重は同水準、座高は0.4cm下回っている。

女子の総発育量は、身長47.5cm、体重34.1kg、座高23.7cmであり、全国平均値より身長は0.3cm下回り、体重は0.2kg上回り、座高は0.3cm下回っている。

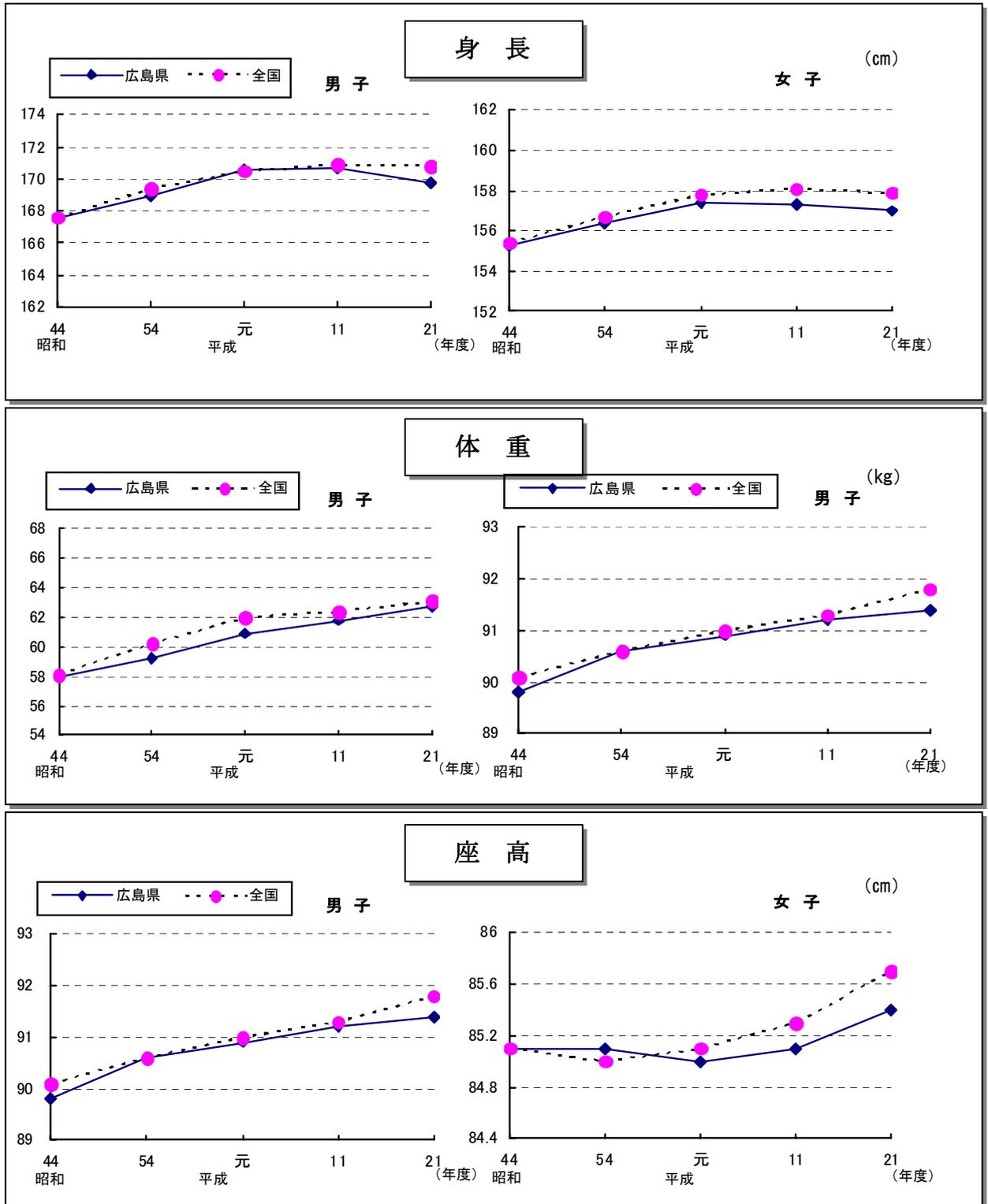
表9 男女別、総発育量の全国平均値との比較

広島県・全国		男子(平成3年度生まれ)			女子(平成3年度生まれ)		
		5歳時の体格 (平成9年度)	17歳時の体格 (平成21年度)	総発育量 B-A	5歳時の体格 (平成9年度)	17歳時の体格 (平成21年度)	総発育量 B-A
		A	B		A	B	
身長 cm	広島県	110.2	169.8	59.6	109.5	157.0	47.5
	全国	110.8	170.8	60.0	110.1	157.9	47.8
体重 kg	広島県	18.9	62.7	43.8	18.7	52.8	34.1
	全国	19.3	63.1	43.8	19.0	52.9	33.9
座高 cm	広島県	62.3	91.4	29.1	61.7	85.4	23.7
	全国	62.3	91.8	29.5	61.7	85.7	24.0

(3) 17歳男女平均値の推移 (図12)

17歳男女における身長、体重、座高(平均値)の推移を昭和44年からみると、平成元年以降、男子身長を除くすべてにおいて、全国平均値を下回って推移している。

図12 17歳男女平均値の推移



(4) 肥満傾向児・痩身傾向児の全国出現率との比較

ア 肥満傾向児 (図13, 図14)

肥満傾向児について、年齢別に全国出現率と比較してみると、男子については、6歳、8歳、14歳、16歳、17歳において、女子については、6歳、7歳、9歳～11歳、13歳～15歳、17歳において上回っている。

図13 年齢別肥満傾向児の全国出現率との比較 (男子)

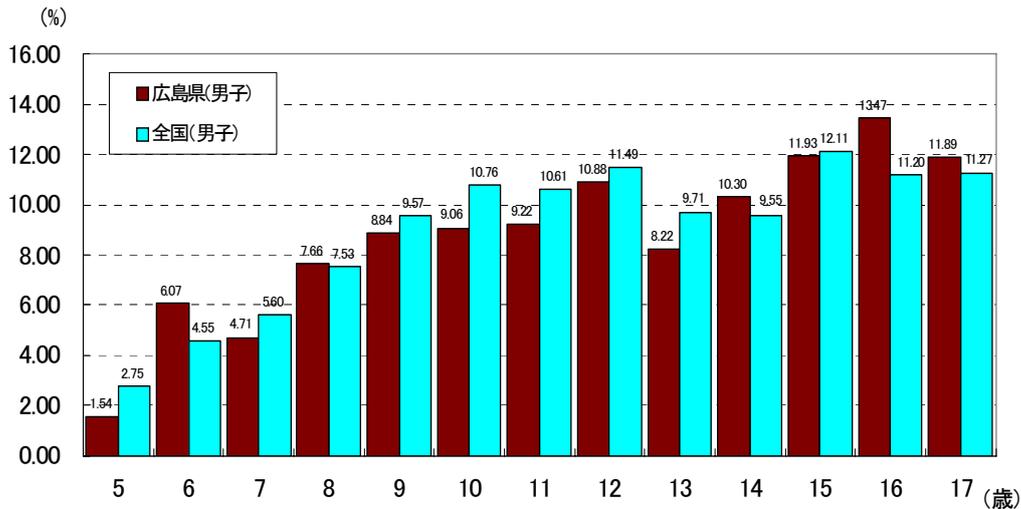
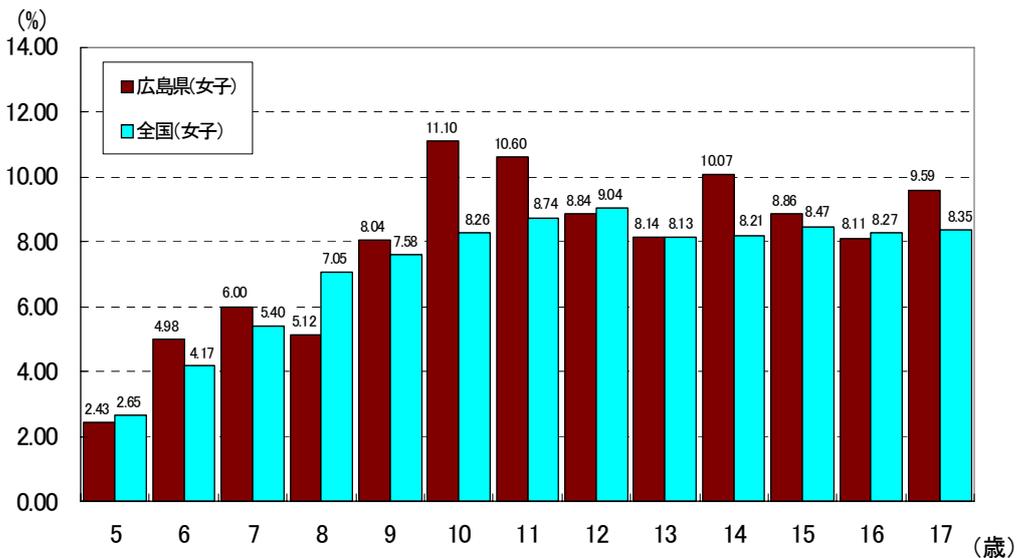


図14 年齢別肥満傾向児の全国出現率との比較 (女子)



イ 痩身傾向児 (図15, 図16)

年齢別に痩身傾向児の全国出現率と比較してみると、男子については6～8歳、12歳、14歳、15歳において上回っている。

女子については、5歳、7歳、9歳、14歳において全国出現率を上回っている。

図15 年齢別痩身傾向児の全国出現率との比較 (男子)

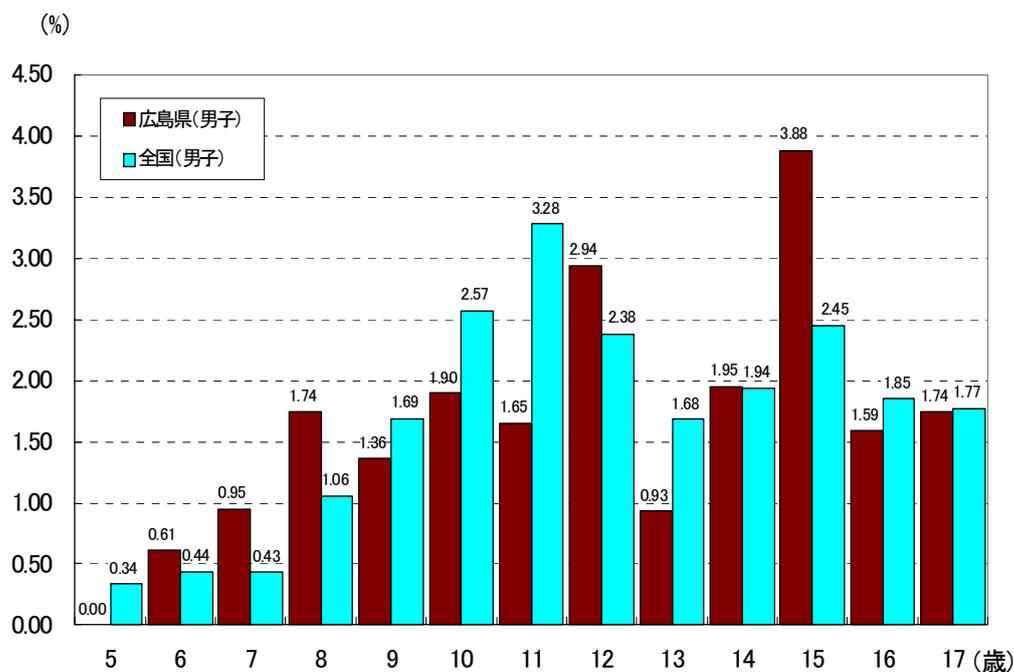
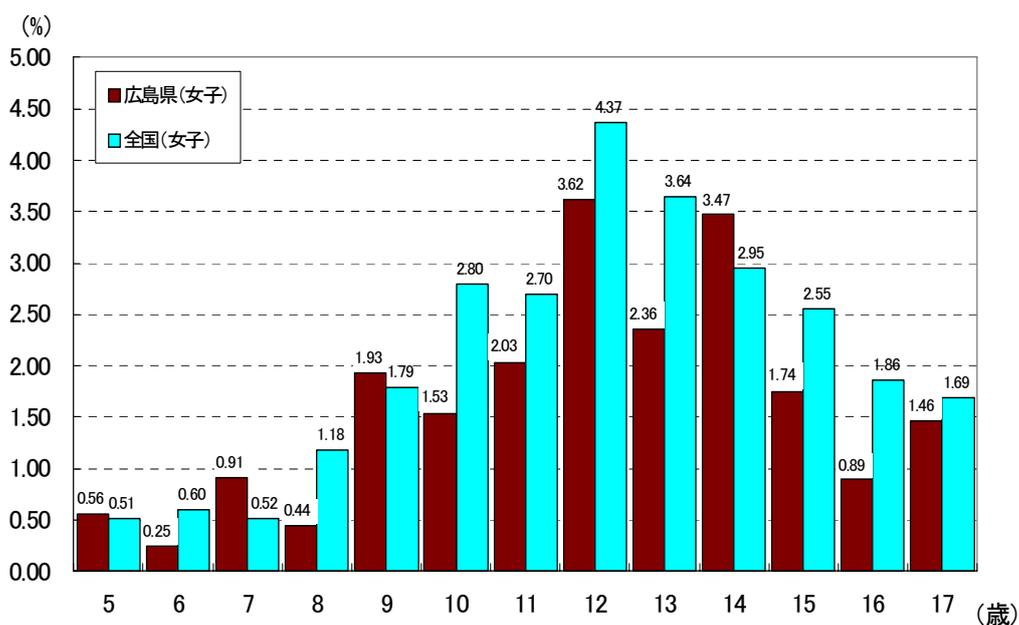


図16 年齢別痩身傾向児の全国出現率との比較 (女子)



2 健康状態 (図17, 図18, 図19, 図20, 図21)

主な疾病・異常の被患率について、全国と比較してみると「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても全国を下回っており、特に中学校においては7.7ポイント、高等学校においては7.0ポイントと、大きく下回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校で全国を下回っている。

「鼻・副鼻腔疾患」の被患率は、小学校及び中学校で、全国を下回っている。

「アトピー性皮膚炎」の被患率は、高等学校で全国を下回っている。

「ぜん息」の被患率は、小学校を除き、いずれの学校段階においても全国を下回っている。

図17 むし歯（う歯）の者の割合 (全国との比較)

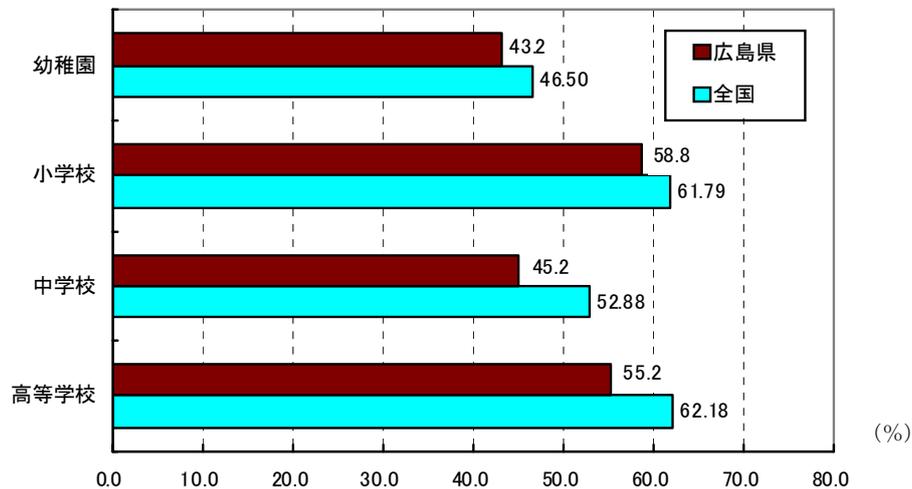
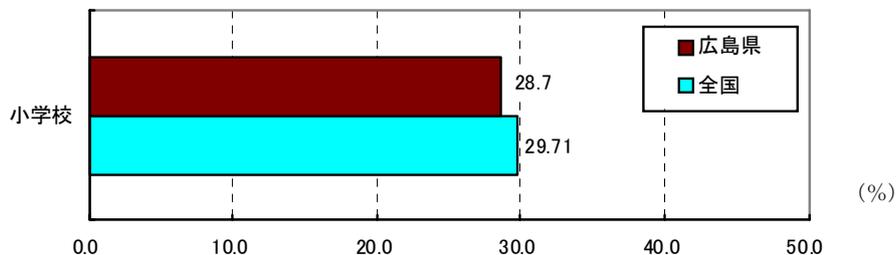


図18 裸眼視力1.0未満の者の割合 (全国との比較)



(注) 幼稚園、中学校、高等学校の「裸眼視力1.0未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため公表されていない。

図 19 鼻・副鼻腔疾患の被患率 (全国との比較)

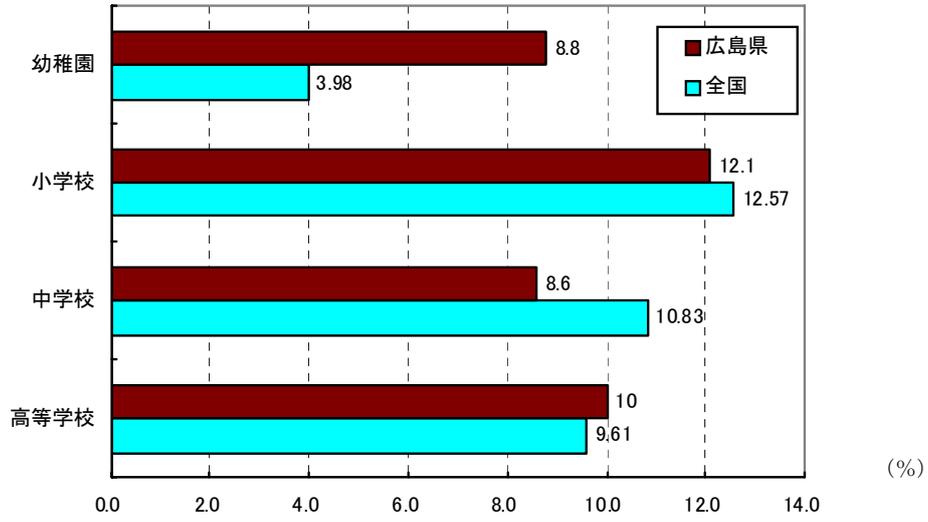


図 20 アトピー性皮膚炎の被患率 (全国との比較)

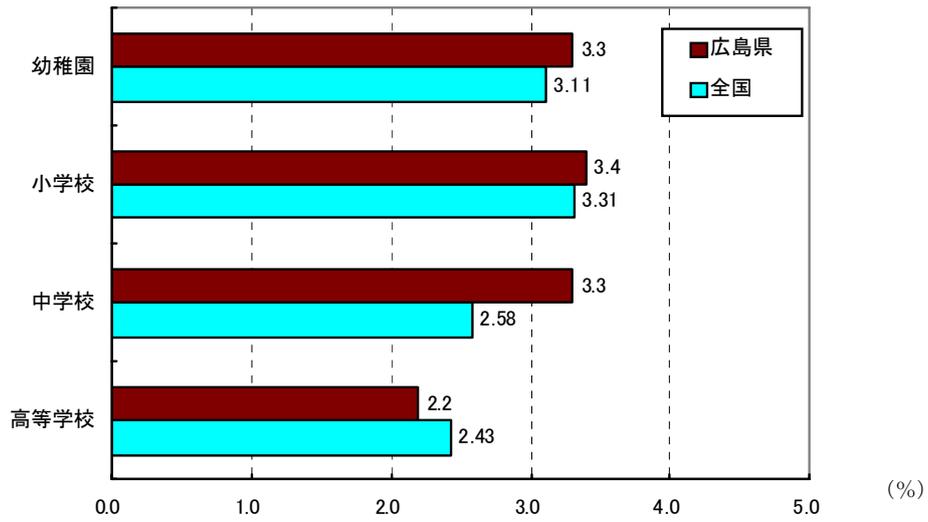


図 21 ぜん息の被患率 (全国との比較)

